

変革の風



2023年3月1日発行
教育スポーツアカデミー事務局
〒276-0049 八千代市緑が丘 2-29-10
TEL&FAX 047-450-0238
Mail esa2021kagaya@gmail.com
URL <http://es-aca.com/>
発行人 加賀谷孝 編集人 佐藤雅英
個人会員 70名 法人会員 26団体

そこに君がいてくれるから
いま、私がここにいる



2022.11.23「朗読劇と音楽とダンスの集い」から「オズの魔法使い」

第6号発行に寄せて

教育研究部 部長 大澤 紀子

年の初めに国立劇場で久しぶりに歌舞伎を鑑賞しました。「通し狂言 遠山桜天保日記」という演目で、歌舞伎の恩人・遠山の金さんの桜吹雪の名裁きを、新春にふさわしい華やかな舞台に人情味あふれる仕立てとなっていて、役者の方々のセリフや表情に魅了されながら、あっという間に幕が下りたように感じました。名役者の演技のすばらしさは言うまでもないことですが、何といっても生の舞台から伝わる熱気やエネルギーに、同じ空間を共有している観客もぐいぐい引き込まれるのだと改めて実感しました。

今年度も秋深まる11月23日、高校生を中心に市内小中学生、そして教職員による「朗読劇と音楽とダンスの集い」が開催されました。千葉英和高校のチャペルという素晴らしい環境の中、一つ一つの言葉やテーマを大

切にした朗読劇・詩の朗読、心洗われる数々の音楽、一糸乱れぬパワフルなダンスと、出演者のエネルギーがほとばしる舞台となりました。この空間を観客の方々と共に味わうことができることに心から感謝いたします。

この活動が世代を超えた地域の大きな文化活動として、豊かに自分を表現することの楽しさやすばらしさを伝える一助となることを願っています。最後に参観された方々の感想から一つ紹介します。「文化交流を通じて、世代を超えて様々なコミュニティーの方がこのように同じ舞台に立つのは、観客にとっても楽しく、意義のあることだと思います。まさに、みんな違ってみんないい！次回も楽しみにしています！」





(有)ヴィジュアルコミュニティ サンセン
代表取締役 石井 成二



昨年の12月10日のアカデミーのテーマは教育とメディアでした。丁度、大和田小学校創立150周年事業に関わっていましたので、資料として残されていた沿革史から、寺子屋教育時代、学制発布、大正デモクラシー、戦中・戦後の教育の変遷に触れる経験をしました。そして、どの時代にも親は子供に、時代に合わせて「独り立ち出来る」ように教育を施していた事を知りました。

現代の大和田小学校でも、コロナ禍に窮しながらも時代に即した教育が展開されていましたが、創立100周年の記念誌に見える地域社会との関係（世間付き合い）や、教育現場の混乱（戦中戦後）を後世に伝えようとする想いが希薄になっていると感じました。

「邑に不学の戸なく、家に不学の人なきこと」を国家の目標とした学制発布。福沢諭吉が「学問」は「実学」であり、学問により知性と行動力を備えた「個人の自立」を目指せと啓蒙した時代。150年の間に「教育」はどう変遷したのでしょうか。

学校におけるメディアの役割が「教授活動の道具」から「学習活動の道具」へ、更には「自立的な学びとしての道具」へと位置づけを変える中で「新たな学力としてのメディア」として位置付けられるようになれば、「リアル」（現実）と「ヴァーチャル」（仮想）との橋渡し、私は「知性」の教育と思いますが、是を教育者は求められます。

現実社会の中で「自立した個人の獲得」の手段としてメディアの活用を身に付けさせる教育とともに、生身の人間として人生を旅する知恵を授ける教育も、大

切では無いでしょうか。メディアはこの「知恵」を育む手段でもあった筈です。

本題に入ります。リアルの王道であるドキュメントを子供たちに見て感じて欲しいと思っています。リセットボタンの無い人生を前向きに生きる二人の20年の記録です。

ドキュメンタリーの主人公は小長谷唯織・息吹、全盲の姉と全盲で肢体重度障害の弟です。私たちはなぜ生まれてきたのか…この問いの答えは？「白い杖」はこのドキュメンタリーの核心です。

現実から逃げるなど厳しく接する母、唯織に料理や洗濯を教える祖母、癌治療を隠しながら勉強や社会適応指導をする先生。唯織にとって一人一人が「白い杖」でした。

ところで2歳年下の息吹くんはどうでしょう、小児癌手術・角膜移植手術など16回の大手術に耐え、唯織の呼び掛けに笑顔で答え、直向きに生きる弟。

他の子供は目が見える、私だけが違うと解った時。寮生活を送った盲学校での虐め。居所のない辛さ。死にたい…と思った唯織。

自分よりずっと辛く、苦しいはずの弟、息吹。唯織は自分の甘さに気づかされます。唯織にとって一番大切な「白い杖」は弟、息吹くんであったのでは無いでしょうか。

追伸 28歳になった唯織さんはもう一本の大切な「白い杖」と結婚されました。

《法人会員のコーナー》 順不同

秀明大学

秀明大学

- 学校教師学部 □ 看護学部 □ 総合経営学部
- 英語情報マネジメント学部 □ 観光ビジネス学部

〒276-0003 千葉県八千代市大学町1-1
TEL 047-488-2111 (代表) FAX 047-488-8290

茶房・古美術 古久

047-486-4649

勝田台店

八千代市勝田台南1-2-16
☎047(482)4800

グリーンヒルキッツ

Tel/Fax: 047-455-8585
Tel: 047-411-5711 Fax: 047-411-5721
Tel: 047-409-5900 Fax: 047-409-8901

CHIBA EIWA HIGH SCHOOL

学校法人 聖愛学園 千葉英和高等学校

秀明八千代高等学校

齋藤会計事務所

SAITO ACCOUNTING FIRM

047-482-2345

想いを伝える…お手伝い

(有)ヴィジュアル コミュニティ サンセン

エディトリアルデザイン 〒276-0031 千葉県八千代市八千代台北5-6-1
TEL: 047-485-8280 FAX: 047-485-9215
グラフィックデザイン e-mail: mishii@cat.email.ne.jp

有 株式会社 オフィスアラシ

〒276-0044 千葉県八千代市田町3-10-10

不登校支援に関わって

八千代市立高津中学校 斎藤 新一

はじめに

「不登校の児童・生徒は9年連続で増え続け、最新のデータでは前年に比べて25%増加し、全国に24万人余りの不登校の子どもがいる。4月に子ども家庭庁ができたあかつきには、不登校児童生徒対策においても異次元の対策を目指していきたい。」

2023年1月16日、小倉将信、こども政策担当大臣が埼玉県戸田市の不登校対策推進校を視察した後の会見で話した内容です。対策の具体案が楽しみです。

居場所づくり

今年度4月より、高津中学校で別室登校の生徒たちの担当となった。高津中は不登校児童生徒支援推進校に指定されている。市内では大和田中、阿蘇米本学園を含めて3校。葛南管内5市では41校が指定を受けている。推進校には校内に不登校児童生徒支援教室（別室）が設置され、加配教員が配置される。高津中は現在、1年生4名、2年生1名、3年生2名、計7名の生徒が支援教室（別室）を利用している。自教室へ復帰するための一時的な居場所として位置けられているが、利用者は校内の長欠生徒数の1割程度である。7人の別室への登校の頻度（日数や時間帯）はバラバラであり、個々が自分のペースで登下校している。ほぼ毎日登校できている生徒は2人である。9教科の授業を組み入れた形で支援教室用の時間割を作成しているが、週に12時間は自学の時間となっている。

年間4回、葛南管内の支援教室担当者、SC、SSW、訪問指導員等が集まり協議会、研修会を行った。それぞ

れの学校で事情が大きく異なっていることに驚くが、共通して話題になるのは、学級担任との連携・登校刺激（学級復帰への刺激）の難しさである。「支援教室に学級の生徒がとられ、甘やかされている」と言ってくる担任がいる。「教室へ行ってみる」と聞いただけで、次の日から支援教室にも来なくなった。などなど苦労話に花が咲く。『「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく『児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立する』ことを目指す必要がある』2019(通知)「何とかしてあげようという教員の使命感は心の中に秘め、不登校の現状を受け入れ、小さな前進があったら褒める」「安全で安心できる場を捜し、小さな挑戦を提案する」等、講演会や研修でよく耳にする言葉です。日々大事にしながら生徒たち一人一人に寄り添っています。

おわりに

埼玉県戸田市では、「メタバース登校」を行っている。ネット上に仮想空間（教室や会議室、リビング）をつくり、自分のアバターを使って好きなように行き来する。スタッフや他の子どもたちとやり取りしながらの学習。グループ学習も多く、子どもたちが元気に発言する声がいきわたる未来の教室。東京のNPO法人が昨年からはじめたサービス。仮想空間を他の人と共有できる安心感で、利用者は全国で90人を超えた。

皆さんはどう思いますか？



《法人会員のコーナー》 順不同



活動報告(11月～2月)

★朗読と音楽とダンスの集い

2022年11月23日(水・祝)に千葉英和高校のチャペルで「朗読劇と音楽とダンスの集い」が開催されました。小雨が降る日でしたが、心が温まる一日でした。

発表内容(発表順)
 千葉英和高校オルガン演奏
 千葉英和高校ハンドベル
 千葉英和高校聖歌隊
 グリーンヒルキッズ朗読劇
 八千代東高校朗読劇
 ピアノ演奏(岩井まりこ)
 千葉英和高校ダンス部
 高校生による詩の朗読
 八千代高校朗読劇



★第4回研修会(スポーツ講演会)

2022年11月19日(土)教育委員会庁舎において、日本学校体育研究連合会会長の友添秀則氏による教育講演会を行いました。今後の部活動の在り方について貴重なお話を伺うことができました。



★第5回研修会(企業との連携)

2022年12月10日(土)教育委員会庁舎において、千葉テレビ取締役会長篠塚泉氏のご講演を拝聴しました。後半は、FMふくろう谷口幸一氏、萱田小学校校長高木雅晴先生、東高津中学校校長田中しをり先生がパネルとして加わり、メディアと教育について、意見交換ができました。



Information

◆第6回研修会(スポーツ指導者の集い)

日時: 2023年3月(未定)
 会場: 未定
 内容: 「これからのスポーツクラブの運営」
 詳細が決まりましたら、改めてお知らせいたします。

◆活動報告書の提出について

2023年度の「提言&活動報告書」の執筆と原稿の提出、ありがとうございました。現在、ページの割振りを進めているところです。(4月末に発行予定)年度末で提出が間に合わなかった方も、事前に原稿のタイトルと枚数をご連絡いただければ、3月10日まで締め切りを延ばせます。できるだけ多くの寄稿をお待ちしています。

◆2023年度入会申し込みについて

2023年度の会員登録を行います。
 個人会員年会費 3,000円
 法人会員年会費 一口10,000円から
 入会案内をよくお読みの上、銀行振込または直接納付してください。
 また、お知り合いの方もぜひお誘いください。

◆2023年度 第1回全体研修会

日時: 2023年4月22日(土)13:00~15:00
 会場: 八千代市教育委員会庁舎1階
 内容: 2023年度活動方針、年間計画、決算・予算等
 情報提供(詳細は未定)

※お問合せは、下記の事務局へ。

連絡先: 副代表 佐藤雅英
 TEL 090-8036-9809 Mail s2000_01@mac.com

※新型コロナの感染状況によって変更する場合があります。



《法人会員のコーナー》 順不同



Viviana PG

